

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 鳴水 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

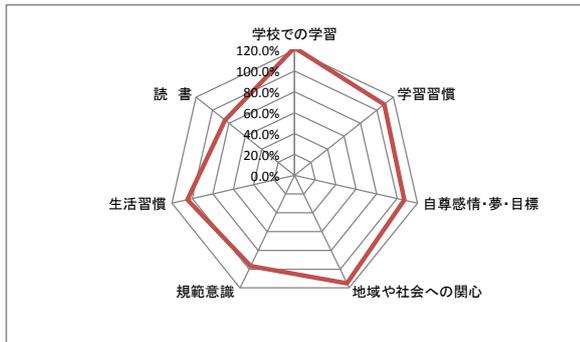
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.1	65	9.0	64
全国	8.9	64	9.3	67

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・「話す聞く能力」「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」を問う問題は、無回答が少なくよくできているものの、「読む能力」に関する事項に課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・漢字を文の中で正しく使う問題、接続語を使って内容を分けて書く問題、ことわざを自分の表現に用いる問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む問題は、正答率が低かった。	
算数	全体的な傾向や特徴など	・「数と計算」「量と測定」「数量関係」の領域は、比較的よくできているものの、「図形」の領域に課題が残る。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取る問題、加法と乗法の混合した整数と少数の計算は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成する問題は、正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・自分にはよいところがあると思っている児童や将来の夢や希望をもっている児童は全国平均よりやや多い。今後も、友達同士でよさや頑張りを認め合う活動など、自尊心の低い児童に自分のよさを自覚させる取組を充実させる。また、教師も児童一人一人の小さな頑張りを認め積極的に励ますことを継続していく。 ・規範意識に関する項目は、全国平均よりやや低い。「なる水っ子の生活(学校のきまり)」「鳴水スタンダード(学習面におけるきまり)」をもとに、学力向上の基盤となる学習規律の定着を図っていく。 ・読書習慣に関する項目は、全国平均より低い。毎週火曜日の読書タイムを有効利用していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ○「わかる授業づくり」に沿い、授業の中で必ず「めあて」を設定し、学習の終末には「まとめ・振り返り」を行い、学習の充実と定着を図る。 ○今後も話し合い活動を継続しながら、自分の考えを書く時間を毎時間取り入れ、「書くことによって考える」学習方法を習得させていく。 ○学習内容定着のため、全校級で朝自習の内容を「読書・計算・漢字や言葉」に統一して実践する。授業のすき間時間を活用し、個に応じた指導を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ○学級指導や保健指導等で、自分たちの生活実態の課題を見つけ、「命を守る」ことや「自分の心や体の成長」について考えることを通して、よりよく生活するためにどうすればよいかを意識しながら過ごせる。また、保護者にも、通信等で課題を知らせ、学校と家庭との両方で取組を進められるようにする。 ○黒崎中校区で、学習習慣や学習規律、規範意識が身につくための統一した約束を決め、共通の目的に向かった指導を行っていく。
--